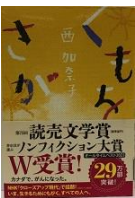


読書会読書グループのための
十冊文庫目録 追録 No. 40
(令和六年度)

千葉県立図書館 令和七年三月現在

書名・著者	解題
黄色い家 川上 未映子 著 	惣菜店に勤める花は、二十年前に共に生活した黄美子が若い女性に対する傷害・脅迫・監禁の罪に問われているというネットのニュース記事を見つける。善悪の境界に迫るクライム・サスペンス。 第七五回 読売文学賞（小説賞） 令和五年刊 六〇一頁 中央公論新社
くもをさがす 西 加奈子 著 	コロナ禍の最中、滞在先のカナダで乳がんを宣告された著者が、がんの発覚から寛解までの八か月間を克明につづったノンフィクション。 第七五回読売文学賞（随筆・紀行賞） 令和五年刊 二五二頁 河出書房新社
言語の本質 ことはどう生まれ、進化したか 今井 むつみ 著 	オノマトペ、アブダクション（仮説形成）推論というキーワードを手がかりに、認知科学者と言語学者が「言語の本質」、「人間の思考の本質」を問う。 新書大賞二〇二四 令和五年刊 二七七頁 中央公論新社
菜食主義者 ハン・ガン 著 	ある日突然肉食を拒否し、ほとんど眠らなくなった妻。日に日にやせていく彼女の様子を夫の視点から描く表題作の他、「蒙古斑」「木の火花」を収める連作小説集。 ノーベル文学賞（二〇二四）受賞者著作、二〇一六年ブッカー国際賞 平成二三年刊 三〇一頁 クオン
サンショウウオの四十九日 朝比奈 秋 著 	二人で一つの身体を生きる「結合双生児」の姉妹の、父の兄である伯父の死から四十九日までの日々を描く。医師でもある著者による生と死を問う物語。 第一七一回 芥川賞 令和六年刊 一四一頁 新潮社
続きと始まり 柴崎 友香 著 	二つの大震災、コロナ禍、戦争。別々の場所で暮らす三人の人物の日常を描き、それぞれの視点から誰にも同じように経過したはずの時間をみつめる。 第六〇回 谷崎潤一郎賞 令和五年刊 三四一頁 集英社

書名・著者		解題
 東京都同情塔 九段 理江 著		不寛容が糾弾されるようになったもう一つの日本で、新しい刑務所「シンパシタワートーキョー」が建てられることになる。犯罪者に寛容にならない建築家・牧名は苦悩しながらも設計の仕事に取り組む。人間の「正しさ」を問うディストピア小説。 第一七〇回 芥川賞 令和六年刊 一四三頁 新潮社
 成瀬は天下を取りに行く 宮島 未奈 著		中学二年生の成瀬は、閉店が予定される西武大津店に毎日通い、ローカルテレビの中継に映えることにする。滋賀県大津市を舞台に、わが道をゆく主人公の一風変わった活躍を描く青春小説。 二〇二四年本屋大賞 令和五年刊 二〇一頁 新潮社
 八月の御所グラウンド 万城目 学 著		自墮落に夏休みを過ごす京都の大学生・朽木は、借金のカタに草野球大会に参加することになる。表題作の他、同じく京都を舞台にした「十二月の都大路上下ル」を収録する。 第一七〇回 直木賞 令和五年刊 二〇四頁 文藝春秋
 まいまいつぶろ 村木 嵐 著		口が回らず、歩いた後に尿を引きずった跡が残ることから「まいまいつぶろ」と呼ばれ蔑まれた九代將軍・徳川家重と、唯一家重の言葉を聞き取ることの出来る小姓の絆と苦闘を描く歴史小説。 第一七〇回 直木賞候補 令和五年刊 三三〇頁 幻冬舎
 ようこそ、ヒュナム洞書店へ ファン・ボルム 著		会社を辞めたヨンジュは、ソウル市内の住宅街に「ヒュナム洞書店」を開店する。店主と書店にやってくる人々のささやかな日常が交わる様子を描く物語。 二〇二四年本屋大賞（翻訳小説部門） 令和五年刊 三六四頁 集英社

※十冊文庫の「書名目録」は、千葉県立図書館のホームページからご覧いただけます。
（トップページ左側「各種資料リスト」の「十冊文庫」のページに目録あり）